

立川市の 重層的支援体制整備事業

～課題解決型支援から伴走型支援へ～



くらいが、
一番いい

令和4年3月10日
立川市高齢福祉課

立川市概要

立川市は東京都のほぼ中央に位置しています。国から首都圏の「業務核都市」に位置付けられており、文化、研究、防災などの広域的な都市機能が整備され、国や都の各機関、医療機関などが集まっています。

まちの玄関口であるJR立川駅には、JR中央線・青梅線・五日市線・南武線が乗り入れ、多摩モノレールや西武拝島線、路線バスなどが通り、多摩地域の交通の要となっています。



立川市

面積
24.36 km²

人口
184,195 人

世帯数
92,734 世帯

(令和2年4月1日現在)



【JR立川駅北口】



【根川緑道】

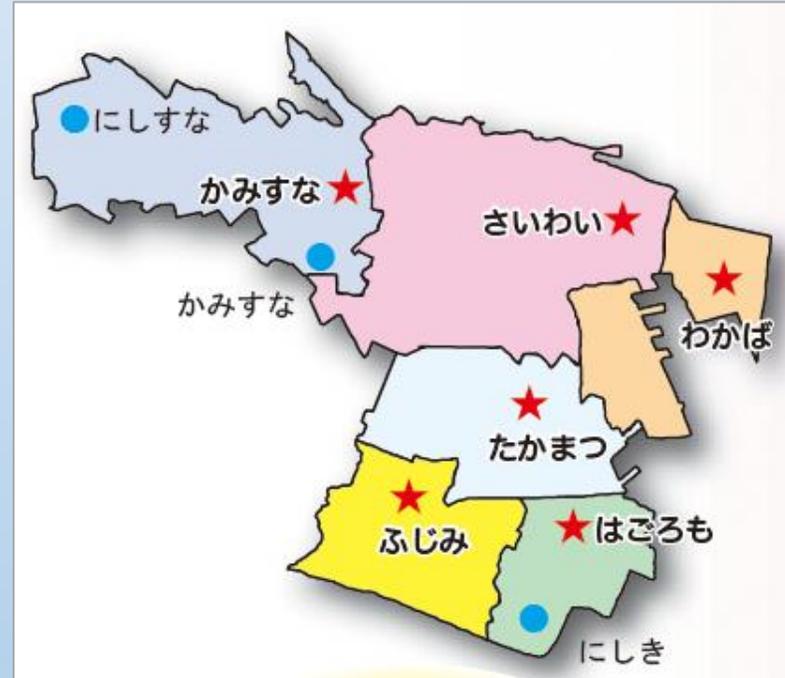


【玉川上水】

立川市概要（高齢福祉・地域福祉）

立川市は、日常生活圏域として市内を6つの圏域に分けて、地域包括支援センターの設置やサービス基盤の整備等を行っています。

またこの圏域は、民生委員・児童委員の地区割とも一致しており、各地域包括支援センターに配置されている地域福祉コーディネーター（立川市社会福祉協議会職員）と連携し、圏域ごとに、相談対応や地域づくりが推進されています。



- ★立川市地域包括支援センター
- 立川市福祉相談センター

各圏域の状況（R2年10月1日）

圏域名	総人口	高齢化率
南部西	29,599人	26.73%
南部東	27,288人	23.19%
中部	26,653人	18.93%
北部東	24,755人	28.62%
北部中	41,855人	24.79%
北部西	34,289人	25.43%
合計	184,439人	24.65%

計画の位置づけ

「すべての人が自分らしくいきいきと、
生きがいをもって暮らせる地域をめざして」

立川市では次の**3つ**のことを
重点的に取り組みます

相談支援包括化推進員^{※1}を配置し、
さまざまな専門機関と連携して、
身近な地域で
まるごと相談を受け止めます

※1 相談支援包括化推進員
複合化・複雑化した課題に寄り添い的確に対応す
るため、各制度ごとの相談支援機関の総合的な
コーディネート等を行います。

地域福祉コーディネーター^{※2}の
活動を強化して、人と人、
人と地域をつなぎ、地域での
交流の場づくりを進めます

※2 地域福祉コーディネーター
小地域単位での「孤立のないまち」をめざし、
住民からの相談対応、住民同士や関係機関等と
の連絡調整や情報収集を行いながら、住民福祉
活動の推進を図っています。現在立川市内6箇
所の福祉圏域に1名ずつ配置されています。

大小さまざまな多機能拠点
(仮称)地域福祉アンテナショップ^{※3}を
つくり、
身近な場所でふらっと立ち寄れる、
相談や交流、活動の場を
広げます

※3 (仮称)地域福祉アンテナショップ
地域での空き部屋や企業の空きスペース等
を活用し、住民主体の運営をベースとした、
相談や、サロン・コミュニティカフェの実
施など、さまざまなテーマで近隣住民の交
流を広くつなぐ、活動の場を表します。

【3つの重点推進事項のつながり】

(仮称)地域福祉アンテナ
ショップの設置

身近な場所で、ふらっと立ち寄れる、
相談や交流、活動の場を広げます



・情報がほしい
・近所の人と一緒に活動したい
・コミュニティカフェをひらきたい
・情報を発信したい

地域福祉コー
ディネーターの活動強化

人と人、人と地域をつなぎ、地域での
交流の場を増やし、孤立のないまちを
目指します

・同じような困りごとを抱え
ている仲間を見つけたい
・地域で得意なことを活か
したい
・家の空き部屋を地域で活用してほしい

市民

まるごと相談支援

多様で複雑な困りごとにより、解決の
お手伝いをします。
相談支援包括化推進員と協働し、行政や
専門機関と連携を図ります。

・高齢になり、手伝いを頼みたいが、障害のある子ども
には頼れない…。子どもの将来も心配
・育児と親の介護で大変そうな人がいる
・相談先がわからず、生活に困っている人がいる

第5次立川
あいあいプラン21

地域福祉市民活動計画-2020年度～2024年度
誰もがふつうに「くらする」しあわせなまち立川
の実現を目指して



社会福祉法人 立川市社会福祉協議会



立川市第4次地域福祉計画
愛称 立川市地域しあわせ・支えあいプラン

令和2(2020)年
立川市

立川市では、令和2年度から令和6年度を計画期間とする「立川市第4次地域福祉計画」で、「地域共生社会の実現にむけた取組み」が位置づけられているとともに、市民の活動計画である「第5次立川市地域福祉市民活動計画（あいあいプラン21）」にも同様の計画があります。

「相談支援包括化推進員の配置」により『相談支援事業』を、「地域福祉コーディネーターの活動強化」と「(多機能拠点)地域福祉アンテナショップの開設」により『参加支援事業』『地域づくりに向けた支援』を行います。

立川市のこれまでの取り組み

【平成31年度】
* 高齢福祉課在宅支援係に8050担当配置



【令和2年度】
* 高齢福祉課に地域包括ケア推進係新設（1名）
* 立川市社会福祉協議会に相談支援包括化推進員（1名）配置

⇒ 重層的支援体制整備事業実施検討開始
⇒ モデルケース、ケーススタディという形で相談支援開始
⇒ 庁内連携会議開催
⇒ 高齢・障害・困窮制度の会議参加

等

（令和2年度相談対応件数 72件）

【令和3年度】
* 高齢福祉課地域包括ケア推進係に相談支援包括化推進員（1名）配置

⇒ 重層的支援体制整備事業への移行準備事業実施
⇒ 令和2年度に引き続き相談支援実施
⇒ 重層的支援体制整備事業実施に向けた庁内外の調整実施
（特に生活困窮担当・地域福祉担当・高齢福祉担当・社会福祉協議会で協議を重ねた）

等

（令和3年度相談対応件数100件）
12月末日時点
内、前年度からの継続51件

これまでの相談の種類

分野	令和2年度件数	令和3年度件数
高齢・介護/子ども/障害/困窮/その他	0	2
高齢・介護/子ども/障害/その他	1	0
高齢・介護/障害/困窮/その他	0	1
子ども/障害/困窮/その他	0	1
高齢・介護/子ども/障害	1	0
高齢・介護/子ども/困窮	1	1
高齢・介護/子ども/その他	0	1
高齢・介護/障害/その他	5	10
高齢・介護/障害/困窮	1	0
高齢・介護/困窮/その他	3	2
子ども/障害/その他	0	2
子ども/困窮/その他	0	1

分野	令和2年度件数	令和3年度件数
高齢・介護/子ども	1	0
高齢・介護/障害	12	6
高齢・介護/困窮	1	2
高齢・介護/その他	25	6
子ども/困窮	1	0
子ども/その他	1	0
障害/困窮	0	2
障害/その他	3	4
困窮/その他	0	2
高齢・介護	1	0
子ども	1	0
障害	6	4
困窮	1	0
その他	7	2
計	72	49

新規受付数 R3年度は12月末まで実績

その他: ひきこもり、不就労(困窮していない)、病気、依存症等

令和3年度の状況

相談者（本人・支援者）

相談

支援

相談支援包括化推進員が受けた相談をケースごとに関連する機関と連携し、支援を実施しています。

自立相談支援機関

相談支援包括化推進員

地域福祉
コーディネーター

保健所

介護サービス事業所

民生委員・児童委員

医療機関

居住支援法人

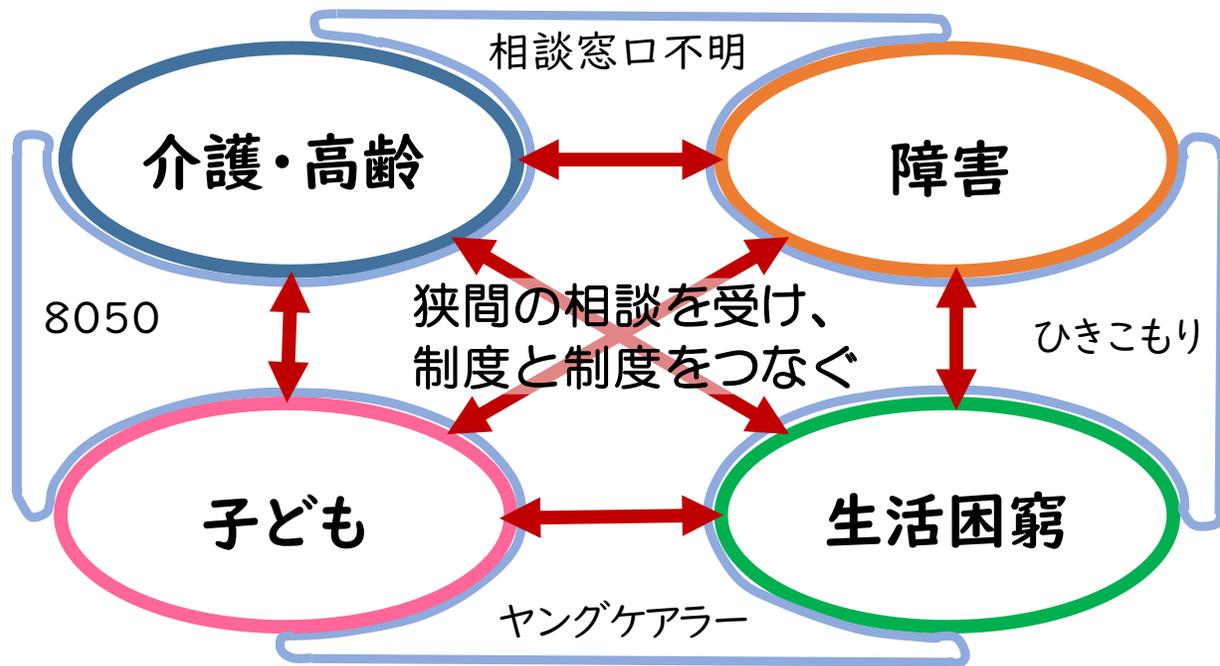
学校・SSW

障害サービス事業所

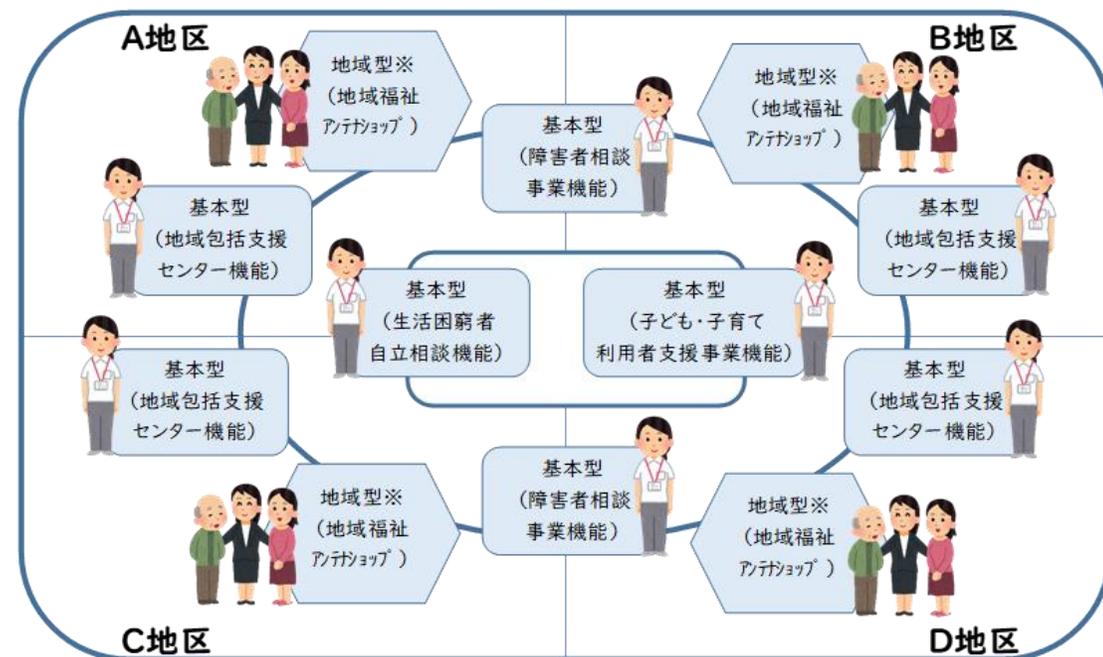
若者サポート
ステーション

行政各部署

令和4年度に向けて（窓口）

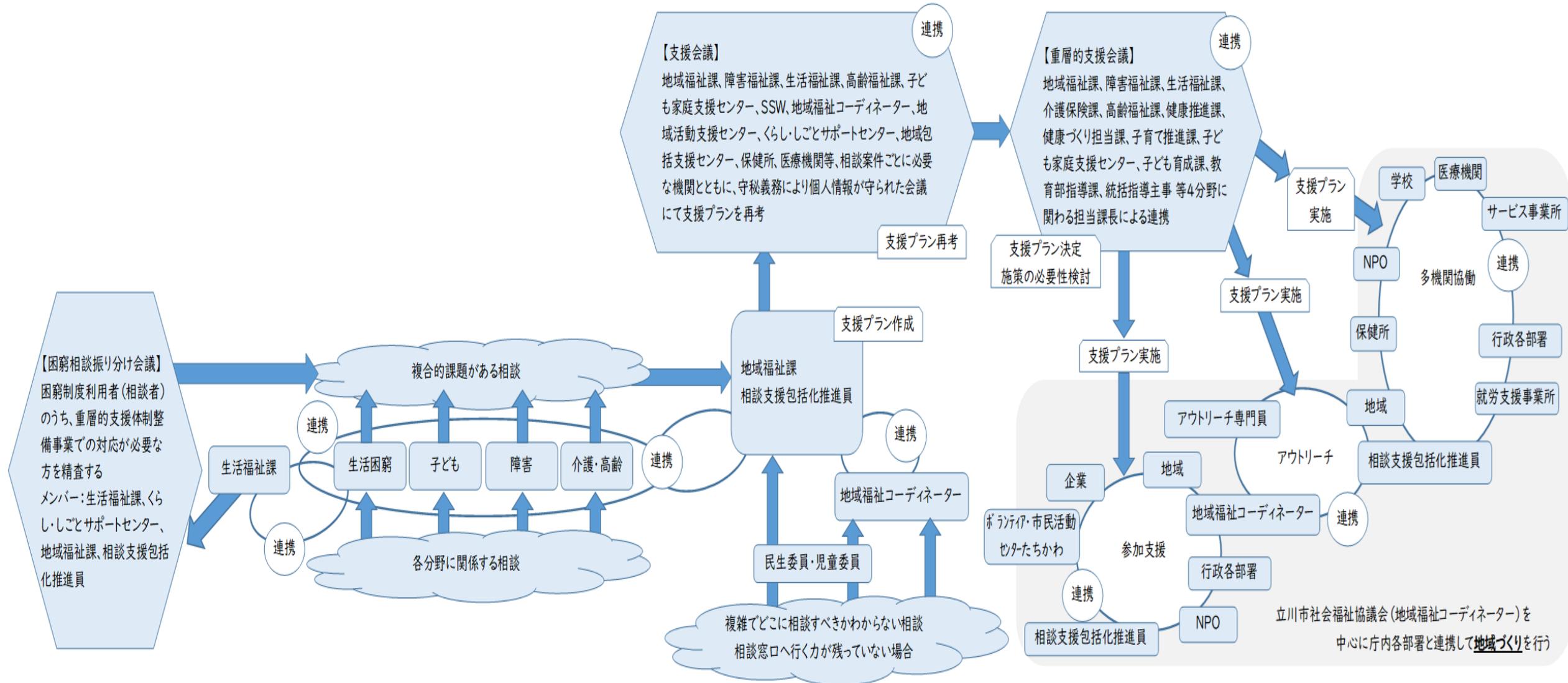


【事業実施イメージ図】



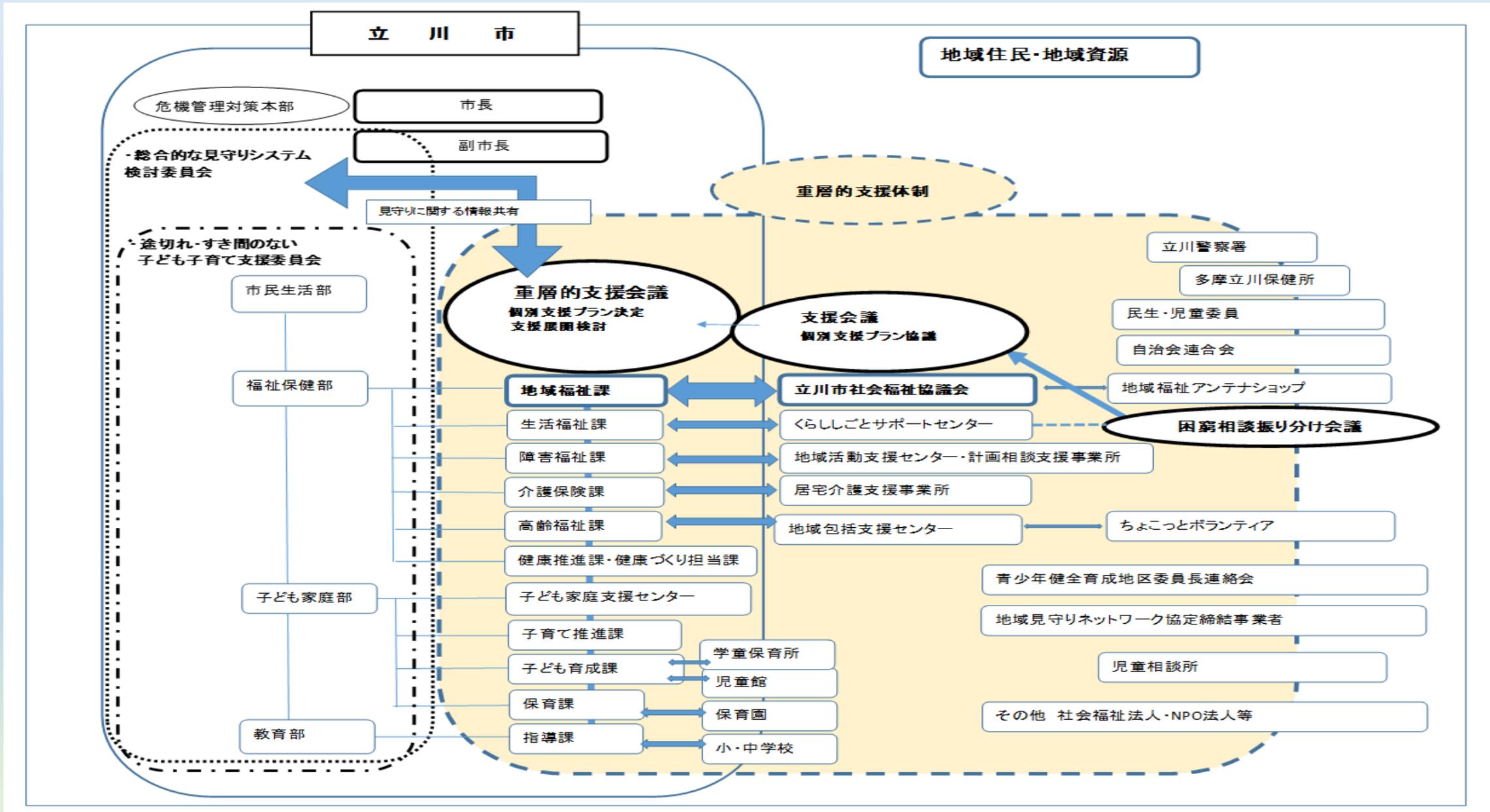
【相談窓口イメージ図】

令和4年度に向けて（体制全体像）



【全体概要イメージ図】

令和4年度に向けて（連携のイメージ）



コーディネーターによる地域づくり

立川市では、2つのコーディネーターが、「孤立のないまち」「住民が困りごとの解決に参加できるまち」を目指して、役割づくりや居場所づくりを行いながら、地域のご縁を繋いでいます。

《配置の経過》

○地域福祉コーディネーター

- 平成19年 北部東地区にモデル配置
- 平成22年 北部西地区に配置
- 平成25年 南部東地区に配置
- 平成27年 南部西地区、中部、北部中地区に配置し、全地区配置となる

○生活支援コーディネーター

- 平成27年 1名配置（1層）
- 平成28年 1名配置（1.5層を2名）

相談の入り口である「相談支援」、社会参加へつながる「参加支援」を担うとともに、これまでの地域との関係性を活かした『地域づくり』に力を入れることで、地域の皆さんが自助・互助による課題解決に取り組めるようサポートを行っていきます。



令和3年度

地域福祉コーディネーター
各圏域1人（計6人）

生活支援コーディネーター
南北各1人（計2人）

これまでも地域において市民の相談を受け、様々な機関につないだり、地域住民のやる気を活かした様々な活動の支援を行ってきた「地域福祉コーディネーター」を、各圏域2名体制にすることで活動強化を目指しています。

令和4年度

地域福祉コーディネーター
兼

生活支援コーディネーター

各圏域2人（計12人）

地域福祉アンテナショップの展開



【にここサロン入口】



【実行委員会の様子】



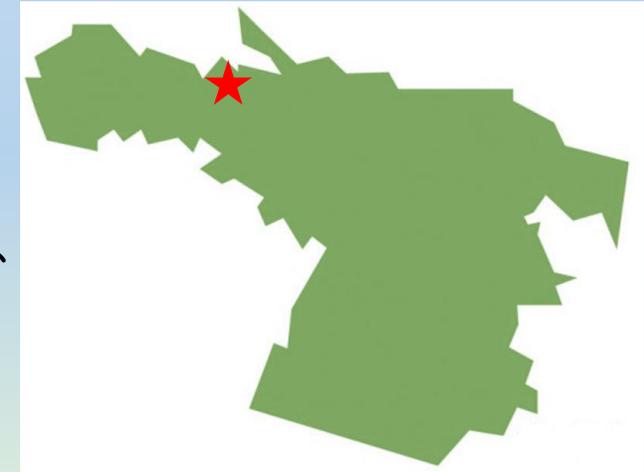
【わくわくフリーディの様子】

地域福祉アンテナショップは、地域の多機能拠点です。身近な場所で、だれもが気軽に、ふらっと立ち寄れる地域の拠点を目指しています。

地域の空き部屋や企業・団体等の空きスペースを活用し、住民が主体となって運営していくもので、サロンやコミュニティカフェなど、地域の方々を広く繋ぎ、地域のつながりを広げる「アンテナ」の役割を果たします。

現在、立川市北西部の一番町市営住宅内の一室で「アンテナショップ」を開催しています。

住民の方による実行委員会で、地域の方に広く知ってもらうためのイベント（フリーディ）の開催等を行っています。



今後の地域福祉アンテナショップの展開については、立川市地域福祉推進員会で検討していきます。